１．飛行場施設の概要

（１）飛行場の基本施設

①米空軍所管

位　　置　青森県三沢市平畑

基地総面積　約１，６００ha（４５８万坪）　標高３６m

滑走路長　３，０５０m×４５m　滑走路方位１０／２８

着陸帯、誘導路、エプロン

②国土交通省所管

空港管理面積　１０６，２１５㎡

誘　導　路　　延長　１８５m×幅２３m

エプロン　　中型ジェット機用３バース

（２）飛行場の附帯施設

①ターミナル地域の主な施設

〇空港管理施設

民航ターミナル区域の諸施設を維持管理するため、東京航空局三沢空港事務所庁舎が昭和５７年度に建設された。

〇ターミナルビル

昭和６０年３月に新ターミナルビルが完成し、４月から営業が開始された。

運営は三沢空港ターミナル（株）である。

〇場周道路

昭和５８年度に延長約５２０mの整備を、昭和６０年度に残区間の整備を行った。

その結果エプロンを取り巻く全延長８１３mが完成した。

〇構内道路

一般車両が通行する路線として７m、１１m、１４m道路が配置されているほか、タクシースタンドを兼ねた専用の７m道路及び制限区域に通じる５m、７m道路を昭和５８、５９年度に整備した。

〇駐車場

昭和５９年度に第１駐車場を新設し、平成１３年度に既設の第１駐車場と未施工区域を一本化のうえ新駐車場として整備した。収容台数は２９７台である。

平成２２年度からは、社団法人日本駐車場工学研究会に運営事業者が変更になりました。

収容台数は１２３台である。

〇電動ゲート

米軍基地と民航地域の境界上に昭和５８年度に設置した。

②ターミナル地域に所在する官公庁等

〇国土交通省東京航空局三沢空港事務所

〇青森県三沢警察署三沢空港警備派出所

〇財団法人航空保安協会三沢事務所

〇社団法人日本駐車場工学研究会

（３）航空保安施設等

①防衛省及び米空軍所管

〇無線施設

ＡＳＲ、ＰＡＲ、ＶＯＲ、ＴＡＣＡＮ、ＩＬＳ、ＡＳＤＥ

〇灯火施設

飛行場灯台、進入灯、進入角指示灯、滑走路灯、滑走路距離灯、誘導路灯、風向灯等

②国土交通省所管

〇無線施設

航空保安業務用無線基地局

〇通信施設

データ端末装置

〇灯火施設

誘導路灯、誘導路中心線灯、エプロン灯

〇電源施設

商用電源　６，６００Ｖ　３相

予備電源　８０ＰＳ　２００Ｖ　５０ＫＶＡ

〇その他

電動ゲート、防火水槽、ロータリー除雪車、空港用救急医療作業車、空港用救難照明車

２．三沢飛行場の沿革

昭和１７年　２月	日本帝国海軍三沢航空隊飛行場開設
昭和２０年　８月	米国陸軍工兵隊による飛行場拡張整備実施
昭和２３年	米国空軍戦闘部隊配置
昭和２７年　１月	日本航空（株）による東京－三沢－札幌線運航開始
昭和２９年　８月	日本航空（株）に代り、日ペリ航空（株）により同路線運航
昭和２９年１０月	航空自衛隊三沢に展開（北部訓練航空警戒隊）
昭和３３年　８月	北部航空方面隊司令部配置
昭和３６年　７月	北部航空警戒管制団配置
昭和３８年　７月	北日本航空（株）による札幌－八戸、八戸－東京線運航開始
昭和４０年　３月	全日本空輸（株）（旧日ペリ航空）東京－三沢線運航中止
昭和４６年　３月	米国空軍戦闘部隊韓国へ移駐
昭和４６年　７月	米軍から航空自衛隊に管制権の移管
昭和４６年１２月	第８１航空隊八戸から移駐（Ｆ－８６Ｆ）
昭和４９年１０月	ラプコン運用開始
昭和５０年　５月	東亜国内航空（株）（旧北日本航空、日本国内航空等）八戸線運航中止
昭和５０年　５月	東亜国内航空（株）による東京－三沢、三沢－千歳線運航開始 （日米合同委員会承認）ＤＣ－９就航
昭和５０年　８月	米海軍対潜哨戒部隊移駐（Ｐ－３Ｃ）

昭和５０年１０月	米海軍三沢航空基地隊が編成され基地の運用業務開始
昭和５２年　９月	民航ターミナルビル　基地外東端部に完成
昭和５３年　３月	第８１航空隊廃止
同	第３航空団愛知県小牧から移駐
昭和５３年　７月	東京－三沢線　１日２便を１日３便に増便 （日米合同委員会承認　１日３便から１日５便）
昭和５４年　７月	東京－三沢線　週４日４便に増便
昭和５５年　５月	東京－三沢線　１日４便に増便
昭和５６年　３月	ＤＣ－９スーパー８１型機就航
昭和５６年　４月	東京－三沢線Ａ－３００型機就航（日米合同委員会承認）
昭和５９年　２月	民航地区エプロン　基地外東端部で暫定運用開始
昭和５９年　３月	新管制塔運用開始
昭和６０年　１月	三沢飛行場の管理権が米空軍第４３２戦術戦闘航空団に代る
昭和６０年　４月	民航ターミナルビル新築移転
昭和６０年　７月	米空軍第１３戦術戦闘中隊配置（Ｆ－１６）
昭和６０年　８月	（財）航空公害防止協会（現（財）空港環境整備協会）による駐車場運営開始
昭和６１年　４月	警戒航空隊配置（Ｅ－２Ｃ）
昭和６２年　３月	ＡＲＴＳ及び管制塔空域監視レーダー運用開始
昭和６２年　７月	米空軍第１４戦術戦闘中隊配置（Ｆ－１６）
平成　元年　３月	三沢ヘリコプター空輸隊配置（Ｃ－４７Ｊ）
平成　３年　５月	米空軍第４３２戦術戦闘航空団が第４３２戦闘航空団に改編
平成　４年１０月	米空軍第三宇宙監視群三沢分遣隊配置
平成　４年１２月	（株）日本エアシステムによる三沢－ホノルルのチャーター便運航 （ＤＣ－１０）
平成　５年　２月	三沢飛行場のＴＣＡアドバイザリー業務開始
平成　５年　４月	大阪－三沢線運航開始　１日６便に増便
平成　５年　６月	米空軍三沢基地司令官「大佐」から「准将」に格上げ
平成　６年１０月	米空軍第４３２戦闘航空団が第３５戦闘航空団に改編
平成　６年１２月	（株）日本エアシステムによる三沢－ホノルルのチャーター便運航 （ＤＣ－１０）
平成　８年　３月	関西－三沢線運航開始　１日７便に増便
平成　８年１２月	（株）日本エアシステムによる三沢－ホノルルのチャーター便運航 （ＤＣ－１０）
平成　８年１２月	関西－三沢線週３便へ増便（火・金・日）
平成　９年　４月	関西－三沢線週４便へ増便（月・火・木・土）
平成　９年１１月	関西－三沢線運航休止
平成１０年１２月	（株）ハーレクインエアによる三沢－オーストラリアのチャーター便運航 （ＤＣ－１０）

平成１２年　１月	三沢空港利用客１０００万人達成
平成１２年１１月	（株）日本エアシステムによる三沢－シンガポールのチャーター便運航（Ａ３００）
平成１４年　４月	三沢空港東京便利用客９００万人達成
平成１４年１２月	東北新幹線八戸駅開業により、東京－三沢線１日４便から３便に減便
平成１５年１０月	米海軍第七艦隊哨戒偵察航空団司令部兼第７２タスクフォース（機動部隊）司令部兼第五艦隊哨戒偵察航空団司令部兼第５７タスクフォース司令部が米軍三沢基地に移転
平成１６年　４月	合併により運航会社が（株）日本エアシステムから（株）日本航空に代わる
平成１８年１０月	（株）日本航空インターナショナルによる三沢－ホノルルのチャーター便運航（Ｂ７６７－３００ＥＲ）
平成１９年１０月	千歳－三沢線運航休止
平成２２年１０月	大阪－三沢線運航休止

資料元：国土交通省　東京航空局　三沢空港事務所（平成 23 年 1 月現在）